

2008年5月

## しょうがっこうをおくる会 様 プラン特別プロジェクト ネパール マクワンプルにおける小学校建設プロジェクト 中間報告書

### 1. プロジェクトの概要

ネパールの首都カトマンズの南に位置するマクワンプル県では、90.1パーセントの人々が農業に従事していますが、農業生産高は低く、人々は苦しい生活を送っています。教育に関しては、近年増加する生徒数に対し、教育施設や設備が不足しているほか、教員の数・質ともに不十分で、適切な教育サービスを提供することができません。学校では、1クラスあたり平均60人の生徒が狭い教室で授業を受けており、給水設備やトイレ、図書室、運動場が整っていないことがほとんどです。

プラン・ネパールのマクワンプル活動地域が管轄するシュリー・セティ・デビ小学校も、教育環境の不備に悩む学校のひとつです。小学校はティンガン9区という村にあり、近隣の2村からも子どもたちが通っていますが、学校が遠いために通学をあきらめてしまう子どもたちもいます。特に、家庭の水汲みや農作業などの手伝いを任される女の子たちにその傾向が顕著です。学校には現在5教室がありますが、どれも10平方メートルほどの小さな部屋で、最低限必要な広さの半分も満たしていません。子どもたちは、狭く換気の悪いこれらの教室に詰め込まれるようにして座っており、授業に集中することが困難です。

このような状況を改善するために、このプロジェクトでは、シュリー・セティ・デビ小学校に約30平方メートルの教室6室を建設します。このプロジェクトの実施により、この小学校に通う先住民族であるタマン族200人の子どもたちが適切な環境で授業を受けられるようになります。

### 2. プロジェクトの進捗状況

プロジェクトは2007年12月に開始後、ネパール国内で頻発しているストライキや議会選挙の影響で、遅延を余儀なくされたものの、現在までに、以下の活動を実施しました。

### ■ 事前準備

ご支援決定後、プランは、地域の人々、教師や保護者など関係者を集め、ミーティングを開きました。その結果、計画立案から、実施、進捗管理、評価などプロジェクトのすべての段階に関わり、プロジェクトの中心的役割を受け持つことに同意し、それぞれの代表からなる学校管理委員会を結成しました。また、その他に、9人の代表からなる建設管理委員会を組織するなど、役割ごとにいくつかの委員会を組織し、詳細な活動スケジュールを立てました。

### ■ 建設準備



基礎を築くための土砂掘削など、熟練技術を必要としない作業は、地域の人々が積極的に参加しておこなわれました。また、建設資材となるレンガや砂利の運搬も、山岳地帯にあるため困難でしたが、地域の人々の協力で、無事搬入されました。

### ■ 建設



現在の建設現場の様子①  
地震に耐えうる頑強な教室の建設を目指しています。



現在の建設現場の様子②

地域の人々の話し合いの結果、2階建て(6教室)の学校建設が決定しました。コンクリートの床に波形のトタン板の屋根をつける予定です。現在は、土台工事の後、1階部分のレンガ積みをおこなっています。レンガの壁が完成したら、レンガの目地塗り・上塗りをおこないます。

建設管理委員会をはじめとする地域の人々は、プランとともに定期的に建設現場を訪れ、資材の使用やプロジェクトの進捗、工事の品質などを管理しています。

#### ■ 今後の予定

学校管理委員会をはじめ、保護者、教師や建設業者の努力により、スケジュールの遅れを取り戻しつつあり、当初の予定通り2008年6までの完了を目指し、プロジェクトを進めています。しかし、資材の価格の高騰で、設計を変更するなど、状態が安定しないため、多少の遅延も予測されません。

### 3. 現地の声

「もうすぐ新しい教室ができるので、とても喜んでます。きれいな教室で、勉強する日が待ち遠しいです。」  
(スク・マヤ・ワイバ／小学3年生男子)

「僕たちの学校は、通学するのには、とても不便な場所にあります。200人の生徒に対し、狭い教室が5部屋あるだけで、ノートを取るために手を動かすことさえも難しいです。その上、換気するための窓が充分にないため、特に夏は暑く、息苦しい程です。これでは、集中して勉強することができません。このプロジェクトで、丈夫で広い教室が完成するんですね。これで快適に勉強することができます。」  
(ドウ・ライ・シャンタ／小学6年生男子)



「このプロジェクトをご支援くださった、しょうがっこうをおくる会様に感謝を述べたいと思います。以前から何度も学校建設のための支援を探してきました。しかし、政府からの財政支援を得ることはできず、新しい教室の建設は夢のまた夢でした。今回のご支援は、発展の遅れた地域の子どもたちに、良い学習環境を与えてくれるでしょう。そして、保護者が、子どもたちに学校へ通うことを勧めてくれるようになるでしょう。」  
(ダハン・バダー／保護者)

「私どもの学校には、5教室ありますが、どれも10平方メートルほどで、まるで個人宅のようでした。そのように狭い教室で、大人数が一度に読み書きをすることは困難でした。生徒数の増加にともない、政府に新しい校舎の建設を申請したのですが、受理されませんでした。しょうがっこうをおくる会様のご支援に大変感謝しています。学校長として、今後は、子どもたちが快適な環境で勉強できることに安堵しております。本当にありがとうございました。」

(ラジェンドラ・カルキ／小学校長)

「遠隔地にある貧しい村に新しい教室が建設され、そのプロジェクトに協力することは、プランの職員として光栄に思っています。少ない財源で、学校を援助することは難しく、ご支援くださったしょうがっこうをおくる会様には感謝しています。このご支援は、遠隔地の子どもたちの教育への大きな助けとなることでしょう」  
(ベッド・ラマ／プラン職員)

#### 4. お問い合わせ先

財団法人 日本フォスター・プラン協会(プラン・ジャパン)  
プラン特別プロジェクト担当 寺田 聡子  
TEL:03-5481-6265/FAX:03-5481-6200  
Email: terata@plan-japan.org